

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 図書館

会議の名称	平成30年度第3回図書館協議会		
開催日時	平成31年3月28日(木) 午後4時00分～5時30分		
開催場所	茅野市図書館 2階会議室		
出席者	矢崎智義、岩崎和子、池田由紀、牛山邦子、大石順子、田村満理、両角薫 山田教育長、平出生涯学習部長、藤森生涯学習課長、辻井図書館長、濱主 事		
欠席者	原猛、三代沢正		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
藤森生涯学習課長	1 開会		
山田教育長	2 教育長あいさつ 前回の協議会では非常に多くの意見を出していただきありがとうございました。それぞれの意見はこれからの参考になるため、大きな宝物をいただいたと思っています。今回は平成30年度の最後の報告となります。前回同様ご意見をお願いいたします。		
	3 審議会の公開について		
	4 議題		
	(1) 平成30年度上半期図書館運営報告		
	(2) 開館時間アンケートについて		
両角委員	おはなしくれよんさんが読書ボランティアとして入られているが、一般の他のボランティア団体もいくつかあると思う。そういった方たちがこういったおはなし会に参加することはできるのか。また案内や募集はしているのか。		
辻井図書館長	定例おはなし会については継続でできるボランティア団体さんと考えている。定例おはなし会は、毎月第1.3.4.5土曜日実施ということでそれだけできる方という募集はまだしたことではない。特別おはなし会については、他のボランティアグループさんをお願いしている。声をかけた中で都合のあったボランティアグループさんをお願いしている。		
両角委員	おはなしくれよんさんだけしか参加できないのかと思う団体もあると思う。特別おはなし会にはどの団体でも参加できるといった案内をさせてもらってもいいか。		
辻井図書館長	案内していただいかまわらない。ボランティア団体さんも最初おはなしくれよんさんだけだったのが、徐々に増えてきている。例えばくれよんさん		

	と週を分けてなど、やっていただける方がいるのなら入っていただければと思う。
矢崎委員長	ボランティア団体にこういったところに参加したいという希望があるのか。
両角委員	本当に参加したいと思っているのかはわからないが、おはなしくれよんだけなぜ入ってるのかという声を聞いた。
岩崎副委員長	ボランティアグループの方とお話をすると、継続していくのが難しくなりつつあるが、今まで活動してきた財産（ぬいぐるみや道具など）がたくさんあり、そういったものをダメにしていくのはとても惜しいという声を聞いた。学校ボランティアが自分たちのやっていることを学校以外の場所でも実施でき、グループのアピールもできる場を図書館と連携していけば、新しい人たちの発掘、つながり、図書館を身近に感じてもらえる場にはできないだろうか。
矢崎委員長	全ボランティア団体に声をかけているのか。
辻井図書館長	全部にはかけていない。把握しているボランティアさんに順番に声をかけている。
矢崎委員長	図書館の今年目標の中に、読書活動グループへの支援とある。それにはボランティアグループの育成も入ってくると思う。
辻井図書館長	それもあって今年新しい読み手の育成ということで読み聞かせ入門講座を開催した。
矢崎委員長	そういった活躍の場の提供が必要になってくる。
辻井図書館長	その講座に参加された方で大型絵本だけのおはなし会に読み手として参加していただける方がおり、活躍の場の提供ができたと思う。講座のあとには読み手として参加できるおはなし会を継続して開催していければと思う。
岩崎副委員長	いろんなグループが入ってくると活性化し、それぞれのグループの技術や水準も上がってくる。
辻井図書館長	上演で使用する製作物について著作権の関係で学校の中ではできるが、外ではできないものがある。上演後破棄をしなければいけないこともある。
岩崎副委員長	できる範囲で考えてもらえばと思う。
田村委員	開館時間延長について、季節や子どもたちの休み、曜日などに合わせて時間の調整することはできるのか。

辻井図書館長	あまり細かく変えてしまうと、わかりにくくなってしまう。夏時間・冬時間ができるかどうか。
田村委員	できないとしたら、なぜできないのか。
辻井図書館長	時間をずらすことで、利用者の方からわかりにくくなってしまう可能性があると考えられる。常に何時から何時までと決まっていた方が、時間を間違えてくるという方が少なくないかと思う。現在は平日 9 時 30 分から 18 時 30 分まで、土日・祝日は 10 時から 18 時までの 2 パターンの時間だが、開館時間の前からいらっしゃる方や、閉館の後からいらっしゃる方がいる。
田村委員	周知をすることが難しいのか。
辻井図書館長	周知はしているが、利用者の方に行き届いていないのかと思う。実際の来館者だと、午前中は 17 人ぐらい、夕方の来館者数は 4 人以下であった。滞在する時間が長くなっているのではないかと思う。早く開館すれば、今まで来ていた方がさらに早く来るというように、新たな方が来館されるというよりはそういった方たちの滞在が長くなっていくと思われる。
大石委員	図書館は地域の課題解決支援、市民の生涯学習を支援する施設。とあるが、図書館としての地域の課題解決支援とはどういったことなのか。
辻井図書館長	現在の情勢の中で必要とされる課題に対する資料を提供していればと考えている。例えば、市で取り組んでいる施策に関するような資料を広く収集して提供をしていかなければいけないと考えている。
矢崎委員長	茅野市は生涯学習を行っている。生涯学習の目的として、地域課題の解決や生活課題の解決がある。図書館もその一員として、手助けをしていく。そういうスタンスである。
平出生涯学習部長	例えば、防災でうちの地域で地形的に災害が起きるといったことを調べたいなどその地域の中で課題を捉えることが出てくる。その際に、図書館がどれだけの情報を提供することができるかといった部分で生涯学習を担っている。
藤森生涯学習課長	地域課題・生活課題といったものがある中で、その地区で防災や食の関係などそれを調べるといった場合に、図書館でも地域課題に応えられるようなものがあることが生涯学習につながってくる。
大石委員	茅野市図書館に来れば、このような課題について解決できる本がたくさんあるということを PR できたら。と思う。
矢崎委員長	図書館としてはその自覚はしているが、積極的なアピールをしていないと思う。

岩崎副委員長	<p>いろいろな連携がこれから必要になってくる。寒天のことなど茅野市でさかんに盛り上げようとしており、一般の人が興味を持ったら、図書館にはそれに関係したこんな本がある。というように同時に発信していくこと、他のところで行っていることと連動していくことが、お金を使わない一番良いアピールの方法だと思う。</p>
矢崎委員長	<p>一生懸命やっているが、アピールが弱いように感じる。</p>
平出生涯学習部長	<p>地域の人たちが一番調べたいのは、その町の歴史。この街がいつ・どういう風になったかが興味がわく。その際に図書館にどれだけ資料があるかということになる。それがどんどん発展して行って、農業のことや昔のことを調べたくなればそういった資料がここにあるのかな。といったことになってくると思う。調べたいものを教えてもらえなければ、なかなか発信もできず、歯がゆいところがある。そういったところで図書館の存在を示していきたい。</p>
矢崎委員長	<p>歴史などは図書館に行こうと思うが、鹿の害があるとき防ぐにはどうしたらいいか、松くい虫の対応方法などの課題も図書館へ行けばわかる。ということのアピールしなければいけない。</p>
牛山委員	<p>保育園職場にいと、絵本のことはよくわかるが、一般の市民の方が図書館に行けばなんでもわかるということを知らない。そういったところを保育園など保護者も見ようところへアピールしていくのはどうか。子どものところへもそういった情報が流れてもいいかと思う。アンケートについては、今回のものは利用している人へのアンケートだが、利用していない人へのなぜ利用しないのかといったことを見ていくと、もっと足を運んでいただけるように思う。</p>
辻井図書館長	<p>何年前かに市民アンケートのところへ載せていただいたことがある。また機会があれば市民アンケートへ図書館の項目を入れてもらいたいと思う。</p>
池田委員	<p>もっと小学生に来てもらいたい。図書館探検隊は各回5人までとなっている。人数制限があるものはもっと何回も開催してもらうとか、今日は何小学校だよと回ってくるのはどうか。茅野高校図書委員によるおはなし会は小学生が見ると憧れることがあると思う。小学生がいっぱい参加できると、図書館に行けば何でもわかるといった土台ができて、生涯を通して利用してくれるように思う。</p>
辻井図書館長	<p>小学生向けだと、夏のクラフト講座、調べ学習講座（こども読書活動応援センター主催）など実際の調べ学習などで来館されるお子さんたちはかなり多い。学校図書館で主に調べ学習はしているが、学校が夏休みに入ってしまったら、本が足りない場合には茅野市図書館へ来て下さっている。</p>
岩崎副委員長	<p>小学生が自分の目的を持った発表するものを作りに来るとか、そういうもののために来ることはあるが、その他に子どもの内に心に感じた楽しみや</p>

	<p>ワクワク感は一生続いていくものだから、調べるとかそういう目的ぐらいの楽しいなど感じるものを作っていく必要があるのではないか。例えば、スクールバスでクラスごとに来て、ただ図書館を眺めて探検したり、本を探したり、そういったことでも学校図書館とはまたちがう規模の図書館を感じられる企画が必要ではないかと思う。クラフト講座など、その時だけじゃなくて、例えば市民館で夜の動物園というものをやっているが、飾りつけだったら親子で切り抜いたりするものにたくさん人が集まってくる。作ったものを図書館の入口に飾ってみるなど、本以外のことでもワクワクできる企画があるのではないか。</p>
辻井図書館長	<p>飾り（図書館を飾ろう）は紙芝居だいすきの後に、保育園の子や小学生の子に今回はお家で作ったものを持ってきて貼ってくださいと呼びかけはしたが、持ってきてくれた方はいなかった。来年度では作って貼り付けるということができればとは思っている。</p>
池田委員	<p>子どもたちが学習で本の帯を作っている。それをまとめて、本の紹介も兼ねて貸してくれると、図書館によく来る子ではなくて、学校図書館にしか行かないような子も、図書館に来てくれるようになると思う。</p>
辻井図書館長	<p>30年度に実施しており、8月25日から10月25日まで「ねえこの本よんでみて」ということで小中学校の図書委員さんのおすすめ本をポップで本といっしょに展示・貸出した。また学校司書さんとも学校図書館と公共図書館とで持っている本が異なるので、公共図書館で持っている本から選んでいただき、書いていただくよう相談していけたらと思う。</p>
矢崎委員長	<p>図書館が目的にしている事業に対してどうなっているかわかるように出してくださいと前回館長へお願いをした。事業だけの報告をしていただいても私たちがそれに対して良い悪いと言えることは少ないので、プランに対してDoをしてチェックがしやすいようにということで、今回図書館協議会で出してもらった。もう少し具体的に数値化をしていただけると私たちの意見が述べやすい。目標の設定、それに対する実施した内容、それをチェックして来年度の事業を見直していく。というようにしていかないとなかなか変わっていけないように思う。市内利用人数と人口・年齢別割合の比較を見てみると、圧倒的に女性が多く、40代～70代が多い。図書館の事業報告を見ると、ほとんどが子ども向けである。年寄りの方向けの講座がないように思う。利用者は40代～70代が多いのだから、見直してもらいたい。</p>
平出生涯学習部長	<p>議会にて「やさしい図書館」にしてくださいと言われた。それは認知症の人たちに認知症の情報を図書館の方から発信してもらいたいと一般質問があった。大人向けがどういったスタンスから入っていけばいいのかかわからないが、大人の人たちにも考えてもらえるというテーマを図書館も提供していくことが大事なのかと思う。</p>
田村委員	<p>失われて行く伝統文化を後世に伝えていくということだが、今の親御さん</p>

	<p>たちは伝統文化というものをわからない方がいると思う。図書館でそういったことを担う役割というものは大きいと思う。伝統文化をどのように図書館として伝えていくのか。また伝えているのかお聞きしたい。</p>
矢崎委員長	<p>紙媒体だけではなく、DVD を保存するとかの手があると思う。県外の図書館では写真で行事の写真を保管しているというところがあった。保存会のDVD を預かって保管するようなことはしていないか。</p>
辻井図書館長	<p>寄贈していただいた DVD を貸出しているものはある。郷土のものということで CD や DVD の所蔵はある。</p>
矢崎委員長	<p>資料として必要なものだと思う。積極的に集めているということのアピールは必要かと思う。</p>
辻井図書館長	<p>写真の保管は図書館よりは博物館の方にあるので、館内展示のために博物館からパネルを借りてきたりしている。</p>
岩崎副委員長	<p>様々なところに資料があって、貸し借りし合うことで連携ができいいと思う。</p>
矢崎委員長	<p>借りているということを考えると、図書館にあった方がいいと思うが。</p>
辻井図書館長	<p>貸出ができるものについては、図書館で所蔵しているものもある。</p>
田村委員	<p>おはなし会だとか実際に関わって何かをやるときに、伝統文化的なものをやってもいいかと思う。</p>
両角委員	<p>読み一む in ちのでは、月夜のおはなし会を年 2 回各地域の公民館やお寺で行っている。その地域の方のできる踊りなどの披露をさせていただいている。</p>
辻井図書館長	<p>何年前かに紙飛行機など昔の遊びということでお年寄りの方に来ていただいたことがある。</p>
岩崎副委員長	<p>読み聞かせや、やさしい手作りのなにかだとか、そうではなくて大人の男性の知識欲をくすぐるような講座が必要になってくると思う。子どもの講座は充実しているのだから、大人バージョンとして地域文化に関わるものなど 3 つほど柱を立てて、できるところから講座を定期的でも不定期でも生涯学習としての好奇心を満たすものをこれから取り組んでいく必要があるかと思う。</p>
辻井図書館長	<p>模索はしたことがあり、古文書の講座を開催した年があった。今は公立諏訪東京理科大学の出前講座を行っている。高齢の方が参加してくださっている。</p>
岩崎副委員長	<p>医療関係の講座が足りないのではないかと思う。県外の図書館で医療に関</p>

辻井図書館長	係するコーナーを作ったら図書館が復活したということがあった。認知症のこと、糖尿病のことなど自分の生活に1番身近な生きる資料になってくると思う。どうしてそのようなコーナーがないのかなと感じる。
岩崎副委員長	別にはしておらず、医療は医療のところへ置いてある。本が古いものばかりにならないようにしている。そういった本があるということがわかりにくいのかと思う。コーナーを作るとどこから何を別置していくのかというのが難しい。図書館の分類が良いところは、どこの図書館へ行っても分類を見れば同じ本が見つけれられるのが良いところである。別置を作って特色をつけていくのが良いのか、周辺情報もいっしょに見ることができる今の分類の仕方にしていった方がいいのか難しい。今コーナーをどうしようかと思っているのが縄文のところ。茅野市は縄文なので縄文のコーナーを作りたいと思うが、郷土が2階にあり、一般が1階にありで歴史の一部を抜いてどこかへコーナーを作ると、歴史としての置き方の連続性が途切れしてしまう。どこへ置くと1番わかりやすいのか迷っているところである。
辻井図書館長	縄文だけを取り上げずに、郷土の歴史といったように流れがわかるようにすればバラバラにあまりならずに配置できるかと思う。十進分類法は周辺から関係する本を取りやすくなっているが、本に詳しい人はわかるがなかなかわかりづらいところもある。やさしい図書館にするためには、図書館へ行くとそこにある。といったものが必要と思う。
矢崎委員長	どこまで崩していくのがいいのかということを検討しなければいけないと思っている。現在コーナー化しているのはパソコンコーナー、ビジネスコーナーなどがある。
辻井図書館長	ビジネスコーナーとパソコンコーナーの利用が少なければ、他のものに切り替えていっても良いかと思う。
岩崎副委員長	利用はある。まとめてコーナーを作ったことで関連のビジネス本はここにあるということが浸透してきた。
矢崎委員長	忙しい方はコーナーがあるととても助かると思う。
辻井図書館長	観光先で図書館へ行ってもらえたらと思う。そうすればその町の図書館へ行けばその町のことがわかるということが大事なことになる可能性がある。人を呼び込もうとしているのであれば、寒天のことを調べたいといったときに、図書館へ行けばわかりますよ。ということを書いた方がいいと思う。縄文もまとまっていた方がいいように思う。
矢崎委員長	郷土の縄文の本についてはまとめてきている。
矢崎委員長	現在 CD が置いてある場所はあまり人がいないのでは。ちょうどいい場所のように思う。

辻井図書館長	貸出的には少なくない。図書館を建てたときに利用が多いものを入口の近くに設計してある。
矢崎委員長	知らないような人が来た時に、入口の近くに置いてあった方が見やすいかと思う。
辻井図書館長	郷土資料が改装前は2階ではなく1階の現参考資料コーナーにあった。入ってきてすぐの行きつける場所にあったが、容量の問題なのか改装の際に2階へ移したため、2階へ上がらないと閲覧できない状態になっている。
矢崎委員長	市民館図書室の郷土資料の配置も考えた方がいいように思う。
辻井図書館長	市民館に専門的な本は置いてないが、茅野市に限らず最近出版されたわかりやすい縄文関係の本は配置するようにしている。ただもう少しあってもいいかとは思ふ。
矢崎委員長	そういった本があると時間待ちのときに、市民館図書室に行けば茅野市ではこんなことやっているんだとか発見があると思う。茅野市の紹介の本が置いてあってもおかしくないし、むしろ必要だと思う。
岩崎副委員長	市民館はホームページに本のリストがあるから、本選びが楽。
辻井図書館長	前回の協議会にて質問であがった、岡谷図書館の除籍本の関係についてだが、金額がわかったので報告をさせていただきたい。除籍本を図書館の協力会というような団体さんに毎年一律1万5千円の払い下げをしており、そこから図書館協力会の方々が市民の方へ頒布している。持ち帰る本についてその活動に協賛された場合は任意でお金を集金させていただいているということだった。1冊いくらといった決まりはないとのこと。
矢崎委員長	何冊ほど出ているのか。
辻井図書館長	年によってちがいはあるが、団体さんの的には赤字ではないかと言っていた。1万5千円という金額も以前に紙の値段で調査をしたものが、継続してきているそう。
岩崎副委員長	茅野市図書館の古本市はなぜやめたのか。
辻井図書館長	閲覧室を1日など利用できなくさせてしまうのと、人手が必要になるため職員を割くのは大変ということもあり、除籍した本を自由に持ち帰ってもらうことのできる読む読むカフェという常設という形にした。
平出生涯学習部長	現在図書館協議会委員は小学校・保育園など子ども関係に偏ったメンバーになっている。生涯学習として大人向けの話題も出てくることから、こういったメンバーの中に大人向けの方も加わってもいいのかなと思う。



矢崎委員長	教育関係だけでなく、産業関係の方などいてもいいかと思う。
岩崎副委員長	子連れの方は0.1.2.3 広場の方へ行き、満たされているように思うが、図書館へ来ると環境や本など子どもの集中する力が図書館はいい。そういったところの発見がもっと伝わればいいなと思う。
平出生涯学習部長	博物館に行けば市民研究員さんがいて、図書館にも地域の市民の方が図書館を支えてくれるような仕組みも考えていけないと思う。
藤森生涯学習課長	茅野市も八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバルを2017年に開催し、現在2020年に向けて進めている。縄文を発信している茅野市の図書館で縄文コーナーがないのはおかしい。といった意見もあった。図書館は茅野市の顔のようなどころがある。そういったところで図書館も茅野市はこういうものがあるといったことがわかるようなところなど、少しずつ特徴あるものにしていきたいと思う。